

★ 県大会三日目に行って

5000m 競歩でこれほど興奮したのは始めてであった。

ここ数年、大塚さんの指導で毎年県大会は入賞を遂げている。

いかんせん3位までしか関東大会の出場権は与えられない。

しかし、今年の春高は違う！

県新人で優勝をしている高島がいる。

連覇して関東へ是非進んでほしい。

スタートして高島は余裕の先頭集団を形成する。

青山も二年生ながらしっかり追歩。

埼玉栄、松山高校とでトップ3を保持する。

記録的には高島はランキング3位。なんとか表彰台をキープしたい。

そもそも競歩は歩形に厳密なルールがあり、警告を重ねると失格する。

たとえゴール直前、ゴール後であっても安心できないシビアな競技なのだ。

早速、他校の選手が警告を受けている。見ているこちらもドキドキしてしまう。

いわゆるランニングと区別するため、両側のかかどが

どちらか接地していなければならず、膝も曲がって着地してはいけない。

つまりランニングのように地面をプッシュしてはいけないらしい。

したがって選手には甚大な疲労と、関節への付加がかかる。



下位の選手は半分を過ぎたあたりから苦悶の表情に変わり、
ふらふらになる。

「これは・・・すごい・・・こんなに苦しい競技なのか・・・」

見ていてこちらが苦しくなってしまう。

まして追い越しが急にはできないので、なかなか順位アップの
タイミングも図らねばならない。

横に出てひょいと抜くランニングとは異なるのである。

抜こうとしてペースアップしようものなら、

走りに近くなり警告を受けるリスクも高まるからだ。

「怖い！」

高島は確実に3位以内にいるのだから

「無理せず関東いけばいい」・・・と消極的なレースを
つつい望んでしまった。



しかし、新人の県王者はそんな貧弱なレースは望んでいなかった。

ラスト一周で満を持して堂々と先頭を奪い、果敢に攻めの競歩を通した。

二位、三位の選手はあわてて食らいつくも高島のほうが一枚上であった。

逃げ切った高島がゴール！

なんと22分16秒の大幅春高新記録をマークした！！

すごい！全国ランクでも十分通用するものであると思われる好記録だ。

青山も9位でゴール！8位は逃したが大健闘だ。

まだ二年生の彼には、大きな目標ができたであろう。

この一年が楽しみである。

まだ3レース目にして9位まで登ってきたのだから。

高島も警告一回もらっている。

きわどい勝負だ。

なんと3位以内にゴールした選手から一人失格者が出た。

私はゴールの上からその選手と審判の会話まで聞こえていたのだ。

ゴールして息を苦しそうに乱す選手に審判が走ってきた。

「君、失格ね」

「……」

そういつて審判は帰っていった。

泣き崩れる選手。

高島を追いかけたペースアップが歩型の違反を呼んでしまったのか……

いつぞやのインターハイでも、トップでゴールした選手に

失格が告げられたことがあったのを思い出した。



「厳しい……」

私は息を飲んだが、それを見守るしかなかった。

それが競歩のルールなのだから。五輪でも同じである。

新聞のインタビューを受ける高島は、冷静を保っていた。

王者の風格がある。

この数年を見てきて、奥岡も後藤も大塚さんとのトレーニングで

「大一番に強い安定感」を備えていると感じた。

「決めなきゃいけない試合」で必ず安定した順位を獲得してくる。

「高島は強くなる……」

直感的にそう思った。

競技場に目をやると下位の選手達が、バタバタ倒れている。

5000m走以上に過酷だ。